

琉球大学学術リポジトリ

臺灣農民の窮状に関して満天下に訴ふ

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2018-04-16 キーワード (Ja): 矢内原忠雄, 台湾, 農業 キーワード (En): Yanaihara Tadao 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/38294

矢内原忠雄文庫

史料名	臺灣農民の窮状に関して滿天下に訴ふ
封筒番号	314
原文所蔵者	琉球大学附属図書館
撮影年月日	平成 17 年 11 月 16 日
撮影者	富士写真フイルム 株式会社
備考	

矢内原忠雄文庫

封筒番号 : 314

史料名	臺灣農民の窮状に関して滿天下に訴ふ
資料形態	
枚数	1
页数	1
縦 (cm)	23.1
横 (cm)	15.3
厚さ (cm)	
書誌的事項	台湾 今泉分類記号 : P

臺灣農民の窮狀に關して 滿天下に訴ふ

臺灣に於ては滿朝時代以來、臺灣の農民が荒地を開墾し、開墾完成して收穫をあげるに至れば、經稅の義務を生じ、これと共に開墾者のために所有權を設定せられる慣習が存在した。日本の領臺以後に於てもこの慣習が踏襲されたのであるが、最近には農民が汗と膏で開墾し、完成の上、所有權の認定を當局に申請すると、當局は開墾不完全といふ名目で、常にこの申請に應ぜず、時日を遷延し、その間、これを開墾者の承諾を得ずしてその手より奪取し、大資本家、退職官吏、製糖會社等に拂下げるといふ懸念なる手段を弄するに至つた。而も會社には人夫を引率し警察官の手を藉りて農民の手になつた農作物を刈取り、土地の引渡しを強要するの暴狀を呈してゐる。かくて稔年の農民の開墾事業は全く資本家の利益に捧げられ、土地を唯一の生活の基礎とせる農民は一朝にして路頭に迷ふ窮狀に置かれてゐる。而もかかる慘狀は一二に止まらず、これに類する事實は現に、臺灣全土に亘つて數十件に及んでゐる。今や臺灣農民は生存權を奪はれ、その代りに餓死の權利を興へられてゐるのである。自己の使命に覺醒せる同志無産者諸君、義を見てなすあるの勇を備へたる民衆諸君、この慘狀を何と見る？

日本無産階級解放運動の陣頭に立つて戦ふ我が労働農民黨は、臺灣農民のこの窮狀を黙視する能はず、敢然としてこれが救済の運動を起さんとするものである。

全無産階級諸君！同志諸君！民衆諸君！請ふ來つて、我等の正義の運動に投じ、臺灣無産大衆の窮狀に對し、義憤の輿論を喚起せられんことを！！

三月九日

労働農民黨

